

ふりがな 氏名	しみず はづき 清水 葉月	都道府県 神奈川県	神奈川県
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・東海大学チャレンジセンター ユニークプロジェクト Connect 代表 ・東海大学 文学部 心理・社会学科 		
私のESD活動	社会教育の理念に基づき、秦野市において子ども・若者の地域社会への参加と自立支援を行う。		

活動の概要

私は大学1年次から現在まで、社会教育主事課程と教職課程を履修しており、子ども・若者に関する教育を中心に学んできた。今までの学びを活かし、地域に出て子ども・若者を支援したいという強い気持ちから、今年度より東海大学チャレンジセンターユニークプロジェクトとして団体を立ち上げた。東海大学チャレンジセンターとは、学生の地域連携課外活動を支援するセンターだ。学生達は大学の支援を受け、SDGsの課題を基盤として自治的に地域課題解決の活動を行っている。

自身が運営する団体 Connect では、秦野市を舞台に「子ども・若者が社会参加を通じて、人と人、人と社会とつながり、自分らしく生きていく」をテーマに活動を行っている。社会教育の理念に基づき、地域において子ども・若者の社会参加と自主的な学習の実現が達成目標である。主に関わっているのは、社会教育主事・司書・学芸員・教職課程の学生である。

これまで市内の児童館や児童ホーム、教育関係施設へ聞き取りを実施し、地域特有の課題とニーズを調査した。結果を踏まえ、各人の得意分野や知識を活用し、子ども・若者の支援を模索している。現在、①夏休みの自由研究支援として理科の実験企画、②司書課程と日本文学科の学生が主になり物語を通じた支援、③3月末に公民館でのミニ・ミュンヘンの実施、の3つの企画が進行中だ。秦野市特有の課題を把握し、随時リフレクションを繰り返しながら課題解決へ向けて活動している。

○「東海大学チャレンジセンターユニークプロジェクト Connect 広報用 Facebook」 <https://www.facebook.com/ConnectTokaiuni/>

○「東海大学 チャレンジセンター」 <http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/challenge/>

今後の活動や協働への展望

このコンファレンスでの経験を活かし、①地域連携の強化、②ニーズに的確に応える支援の実現、③団体規模の拡大を行うことで、活動の発展を目指す。

今後の社会で求められる支援は、人と人、人と社会をつなぐ「ハブ」的な取り組みだと考えている。そして、私達の活動も、地域と子ども・若者達をつなぐ環境醸成が到達点である。しかし、自身の団体の活動には、上記3点の課題が存在している。

そこで、本コンファレンスでの学びを活動に活かし、地域連携を強化させ、地域の「みんな」で「みんなの」教育を考える支援の実現を目指す。具体的には、地域と交渉を重ね、信頼関係を築く。現在進行中の企画について、学びを提供するのではなく、共に検討できる体制作りを行う。団体が「ハブ」となり、多くの地域関係者を巻き込んでいこうと考えている。

さらに、若手 ESD 実践者の方々から団体運営の方法を学ぶことで、的確にニーズに応え、かつ実現可能な支援活動を実践していこうと考える。そして、団体規模を拡大し、登録学生50名以上の「チャレンジプロジェクト」へ昇格し、継続的な支援活動を目指す。このコンファレンスから得た学びの成果を、教育・地域の発展に還元する。

また、ESD 日本ユースの一員として、ESD 実践者とのつながりから学びを深め、社会教育に携わる者として ESD の周知を図り、今後も地域と連携した教育支援活動に取り組むことで、社会教育の視点から ESD 全体に貢献したいと考える。